



田中 潔 著

手ぎわよい科学論文の 仕上げ方

(付) 初心者べからず集

共立出版社, 1982, 187頁, 1,800円

これを読んだ後、私が最初に感じたことは気象学会誌「天気」「気象集誌」への投稿者および編集委員にまず一読をお薦めしたいという衝動であった。というのは、私が今まで経験してきた報告物の編集業務や和・英論文の投稿の際に犯した沢山の失敗の大部分が、本書に収められた種類の明確な知識なしに、そのような仕事に係ったことによると気付いたからである。

著者は最近退官した医学部教授であり、かつて大学発行の学術雑誌編集主任をしていた。裳華房発行「科学論文の書き方」の著者でもある。また、本書は雑誌「科学と実験」に連載されたもののまとめである。

著者の専門が気象学とは異なるため、気象学論文の仕上げ方としては不適當な部分もあるかも知れないという懸念は杞憂だった。むしろ逆に別分野の考え方が気象学分野と殆ど違わないことを教えられ驚かされた。

本書から私が教えられたいくつかを掲げると

1. コンピュータによる文献探索の詳細。
2. 結論と総括の区別つまり「結論 (conclusion) は考察の結論であって短い言葉で表現され、総括 (摘要 summary) は全編の要約であって多くは箇条書き又は列記される」ということ。
3. 漢字と送り仮名、学術用語集、単位と略語についての説明。
4. 表の見出しは表の前に来て、図の見出しは図の後に来る理由。
5. 論文の図は主に凸版印刷によること。そしてそれと平版 (オフセット) や凹版 (グラビヤ) との違い。
6. 凸版原図の文字・記号の作り方として
 - インスタント・レタリング (Letraset)
 - レタリング・マシン (Kroy タイプ)
 - レタリング・セット (LeRoy 書字機)
 - セルロイド文字板 (Lettering guide)
 - タイプライター
 - 原画用符号帖
 があること。
7. 校正の仕方、などなどである。

現在、出版技術はワード・プロセッサ、図形処理装置の出現・普及によって急激な発展をとげつつある。両者は科学論文の仕上げ方に改革をもたらすことが予測されるが、本書には含まれていない。もっとも昨年発行の本書にそれを期待するのは無理かもしれないが、

さて、最後に本書の総括ともいべき初心者べからず集のタイトルを掲げるにより本書の概要を示唆したい。

1. 論文執筆を面倒がるな。
2. 論文は他人に読んでもらうものであることを忘れるな。
3. 文献を調べずに論文を書くな。
4. 文献の機械探索に頼りすぎるな。
5. 文献の孫引きをするな。
6. 第一原稿はゆっくり考えて書くな。
7. 第一原稿は緒言から書き始めるな。
8. 儀礼的な共著者を加えるな。
9. 長い結論を書くな。
10. うそ字を書くな。
11. 不必要にかなで書くな。
12. 送りがなにも規則があることを忘れるな。
13. 既成語と混同される略語を作るな。
14. ねじれた文を作るな。
15. 中止法の使い方を誤るな。
16. 図のような表はなるべく作るな。
17. むだな表や大きすぎる表を出すな。
18. 表の中に線を多く引くな。
19. 縮小率をきめなくて凸版原図を作るな。
20. トレース・写植はりの依頼はめったにするな。
21. 凸版か写真版か迷うような原図を作るな。
22. 和文雑誌の表紙にある略記法は使うな。
23. 外国雑誌名を我流で略記するな。
24. タイプ打ちをむずかしいことと思うな。
25. 鉛筆書きの原稿を出すな。
26. 改行の必要性を忘れるな。
27. 校閲者の嫌う原稿を出すな。
28. 印刷の知識なしに投稿するな。
29. 自分勝手の校正の仕方をするな。
30. 校正に自信を持つな。
31. 編集者の困る原稿を書くな。

(久保田 効)